

## 世界株式トレンドフォロー戦略ファンド

(ロングコース/ロング・ショートコース)

### 足元の運用状況と今後の見通し

2020年3月13日

平素は、「世界株式トレンドフォロー戦略ファンド（ロングコース/ロング・ショートコース）」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。当ファンドの足元の運用状況と今後の見通しについてお知らせいたします。

#### ■ 基準価額・純資産・騰落率の推移

##### ■ ロングコース

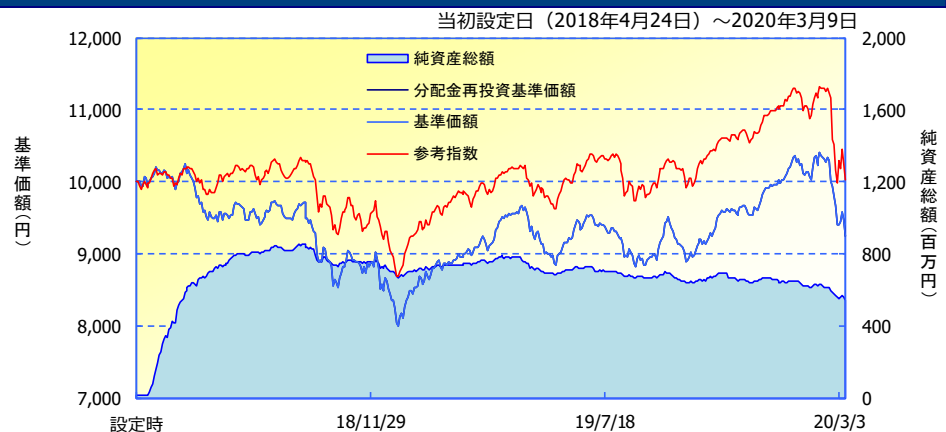
###### 《基準価額・純資産の推移》

2020年3月9日現在

基準価額	9,244 円
純資産総額	543百万円

###### 期間別騰落率

期間	ファンド	参考指数
1カ月間	-10.7 %	-10.7 %
3カ月間	-4.1 %	-6.2 %
6カ月間	+0.9 %	-1.4 %
1年間	+2.2 %	+3.3 %
3年間	----	----
5年間	----	----
年初来	-7.7 %	-9.3 %
設定来	-7.6 %	+0.4 %



##### ■ ロング・ショートコース

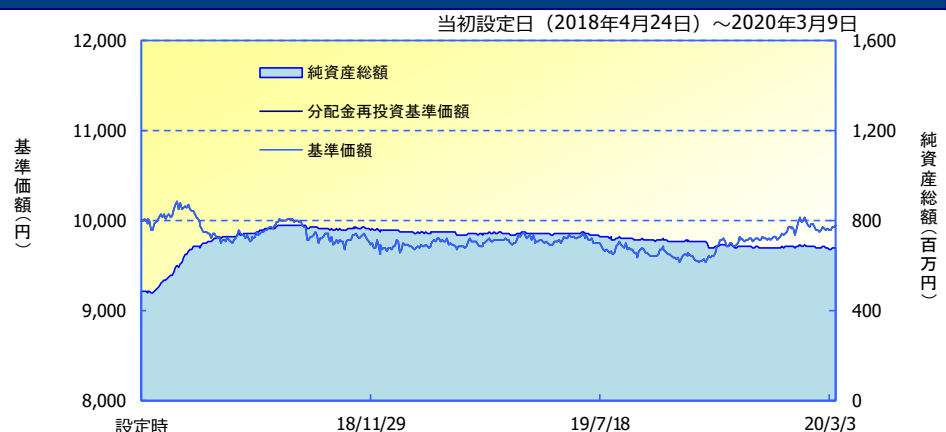
###### 《基準価額・純資産の推移》

2020年3月9日現在

基準価額	9,939 円
純資産総額	673百万円

###### 期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-0.4 %
3カ月間	+1.6 %
6カ月間	+3.6 %
1年間	+1.8 %
3年間	----
5年間	----
年初来	+1.5 %
設定来	-0.6 %



※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※「参考指数」はMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み・円ヘッジ）です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

※「参考指数」は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考のため掲載しています。

※MSCIインデックスはMSCI Inc.が開発した指数です。MSCI公表データに関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

## Ⅰ 「ロングコース」の運用状況

当ファンドは、独自の計量モデルを用いて株価指数の値動きを推定し、上昇トレンドの強いと考えられる銘柄を選び、毎月月中に入れ替えると同時に米国国債および日本国債を組み入れます。

足元の運用状況概要ですが、2020年1月31日から2020年3月9日までの、基準価額の騰落率は約-8.8%となりました。また、当ファンドが参考指数としているMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（配当込み・円ヘッジ）の同期間における騰落率は-8.9%となりました。

この間特に、2月下旬以降の期間において、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、各国の対応が大規模、かつ深刻化してきたことで、今後への不安が一層高まり、世界各国の株価指数先物が下落したことから、基準価額が下落基調となりました。

## Ⅱ 「ロング・ショートコース」の運用状況

当ファンドは、独自の計量モデルを用いて株価指数の値動きを推定し、上昇トレンド・下落トレンドの強いと考えられる銘柄を選び、毎月月中に入れ替えると同時に米国国債および日本国債を組み入れます。

足元の運用状況概要ですが、2020年1月31日から2020年3月9日までの、基準価額の騰落率は約-0.4%となりました。

この間特に、2020年2月上旬においては基準価額が下落基調にありました。2月上旬については、主にハンセン中国企業株指数先物が1月下旬の下落からの反転によって上昇し、ショートポジションのマイナス寄与がロングポジション側のプラス寄与よりも大きかったため、基準価額は下落しました。その後は、特に3月に入ってから、ショートポジションで保有していたFTSE MIB指数先物の下落等がプラスの寄与となり、基準価額は小幅に上昇しております。

## 【参考】投資対象となる先物の騰落率（現地通貨ベース、1カ月）と説明

先物名	騰落率	対象指数説明
日経225先物(CME)	-14.7%	東京証券取引所第1部上場銘柄のうち市場を代表する225銘柄で構成される株価平均指数。
ハンセン中国企業株指数先物	-3.7%	香港証券取引所上場の中国本土企業株(H株)、Pチップ、レッドチップで構成される浮動株調整後時価総額指数。
ハンセン指数先物	-5.5%	香港証券取引所上場の浮動株に基づく時価総額加重平均指数。
MSCI台湾指数先物	-4.9%	浮動株調整時価総額加重株指数。台湾市場の大型および中型のセグメントのパフォーマンスを反映するように設計されている。
MSCIシンガポール指数先物	-8.2%	浮動株調整時価総額加重株指数。シンガポール市場の大型および中型のセグメントのパフォーマンスを反映するように設計されている。
ASX SPI200指数先物	-10.8%	オーストラリア証券取引所上場の浮動株調整時価総額上位200銘柄からなる指数。オーストラリア株式の流動性、市場パフォーマンスを表す指標株価指数と見なされている。
CNXニフティ50指数先物	-9.9%	浮動株調整時価総額加重平均指数。インド証券取引所に上場する大手企業からなる主要株価指数。市場を代表する50銘柄で構成される。
EミニS&P500先物	-11.4%	時価総額加重平均指数。全主要業種を代表する500銘柄で構成され、米国経済のパフォーマンスを表す。
Eミニナスダック100先物	-10.1%	調整時価総額加重平均指数。ナスダック上場の米国内および外国で発行された金融以外のセクターで時価総額と流動性が最も高い100銘柄で構成される。
ラッセル2000ミニ先物	-14.0%	米国企業株のうち時価総額上位3000銘柄からなるラッセル3000種指数の時価総額1001-3000位の2000銘柄からなる。
S&P/TSX60指数先物	-8.8%	時価総額加重平均指数。トロント証券取引所で取引される時価総額および流動性の上位60銘柄からなる。構成銘柄は、主にカナダ国内または多国籍の大手企業。
ダウ先物ミニ	-12.1%	米国の主要業種の代表的な30の優良銘柄で構成される株価の単純平均指数。
FTSE100指数先物	-13.2%	ロンドン証券取引所上場の時価総額上位100銘柄で構成される時価総額加重平均指数。
DAX指数先物	-14.9%	フランクフルト証券取引所上場のドイツ企業のうち優良30銘柄を対象としたトータルリターン指数。指数値計算には浮動株を使用。
CAC40指数先物	-14.9%	フランスの指標株価指数。ユーロネクスト・パリ上場の企業株のうち、浮動株調整時価総額と流動性の上位40銘柄からなる。
FTSE MIB指数先物	-14.8%	イタリア取引所上場の流動性および時価総額が高い40銘柄で構成される。当指数の組み入れ銘柄を選定する場合、外国企業株も対象とされるが、メイン市場以外の銘柄は対象外。
IBEX35指数先物	-14.7%	スペイン連続時間市場の指標株価指数。最も流動性の高い35銘柄で構成される。証券取引所協会が指数値を算定、管理、公表する。指数値算出には浮動株を用いる。
AEX指数先物	-13.9%	ユーロネクスト・アムステルダム上場のオランダ企業株のうち時価総額、流動性の上位25銘柄からなる浮動株調整時価総額加重平均指数。
ユーロ・ストックス50先物	-14.9%	ユーロ圏の上位優良銘柄で構成される代表的な指数。
スイス株価指数先物	-11.5%	スイスの電子取引システム上場の時価総額および流動性が最も高い銘柄で構成される時価総額加重平均指数。指数値計算には浮動株を使用。
MSCIエマージング・マーケット指数先物	-9.0%	浮動株を加重した株価指数。世界の新興国の株式を対象としている。
FTSE/JSEアフリカトップ40指数先物	-10.6%	時価総額加重平均指数。FTSE/JSE全株指数のうち時価総額上位40銘柄で構成される。
平均	-11.2%	---

※基準日は2020年3月9日です。

※「騰落率」は先物価格に基づき大和投資信託が参考のために算出したものです。当ファンドへの寄与を示すものではありません。

※「騰落率」は海外市場で取引されている先物は現地前営業日ベースです。

※「対象指数説明」は各先物の対象指数についての説明です。

※「対象指数説明」は2018年12月末現在です。

※「平均」は各先物の日々のリターンを単純平均して算出しています。

(出所) Bloombergより大和投資信託作成

## Ⅰ (参考) 投資対象指数選定の推移

		国名	指数名
2020年1月	ロング	豪州	ASX SPI200指数
		南アフリカ	FTSE/JSEアフリカトップ40指数
		カナダ	S&P/TSX60指数
	ショート	香港	ハンセン指数
		イタリア	FTSE MIB指数
		米国	ラッセル2000
2020年2月	ロング	インド	CNXニフティ50指数
		米国	ラッセル2000
		シンガポール	MSCIシンガポール指数
		豪州	ASX SPI200指数
	ショート	スイス	スイス株価指数
		カナダ	S&P/TSX60指数
		中国	ハンセン中国企業株指数
2020年3月	ロング	英国	FTSE100指数
		米国	ナスダック100
		南アフリカ	FTSE/JSEアフリカトップ40指数
	ショート	インド	CNXニフティ50指数
		イタリア	FTSE MIB指数
		新興国	MSCIエマージング・マーケット指数

※実際の投資にあたっては先物取引を利用します。

※また、銘柄選定のタイミングは月により異なっているため、月中において常に上記銘柄が組入銘柄となっているわけではありません。

### Ⅰ 「ロングコース」の今後の運用方針

足元の株式市場は新型コロナウイルスの動向に非常に神経質な状況が続いています。当面は、各国による感染拡大の抑制に向けた取り組みと、その効果を見守る状況が続きそうですが、感染拡大ペースが鈍化してくれば、各国の金融・財政による経済支援策への期待が急速に高まる可能性もあると考えられます。

今後も、主として、独自の計量モデルを用いて、世界の株価指数先物の中から、上昇トレンドが相対的に強いと想定されるものを選定して買建てることにより、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

### Ⅰ 「ロング・ショートコース」の今後の運用方針

今後も、主として、独自の計量モデルを用いて、世界の株価指数先物の中から、上昇トレンドが相対的に強いと想定されるものを選定して買建て、また、下降トレンドが相対的に強いと想定されるものを選定して売建てることにより、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

## I ファンドの目的・特色

### ファンドの目的

#### ロングコース

- AI（人工知能）を取り入れた計量モデルを活用することで、世界の株価指数先物のトレンドを捉えて取引対象を選定し、買建てを行なうことで信託財産の成長をめざします。

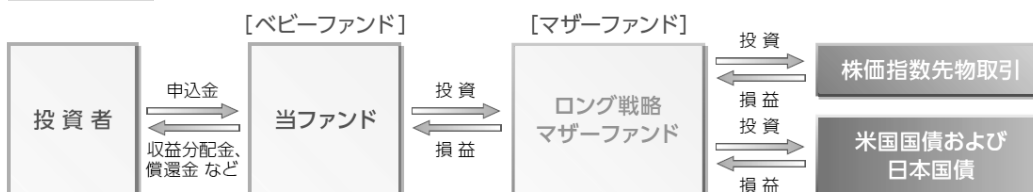
#### ロング・ショートコース

- AIを取り入れた計量モデルを活用することで、世界の株価指数先物のトレンドを捉えて取引対象を選定し、買建ておよび売建てを行なうことで、安定した収益の確保をめざします。

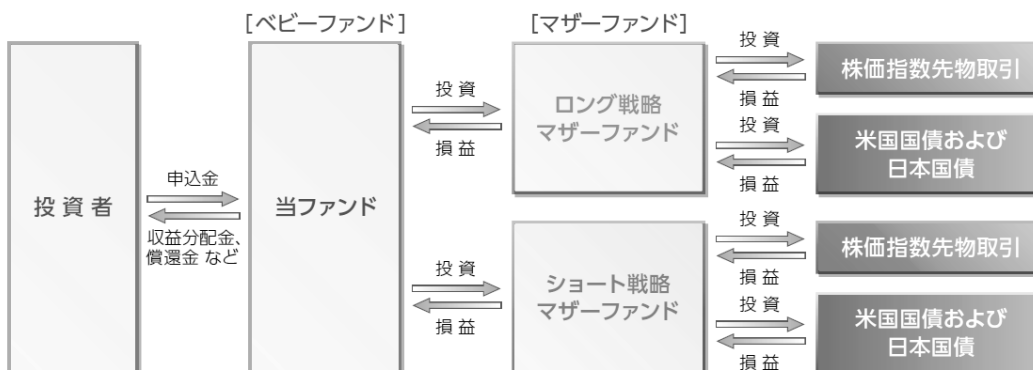
### ファンドの特色

- 世界の主要な株価指数先物取引を活用するとともに、米国国債および日本国債に投資します。
- 世界の株価指数先物のトレンドを捉えるため、AIを取り入れた大和投資信託独自の計量モデルを活用します。
- 投資手法の異なる2つのコースがあります。
  - ロングコース
    - 世界の株価指数先物の中から、上昇トレンドが相対的に強いと想定される上位3つ程度を選定して買建てます。
  - ロング・ショートコース
    - 世界の株価指数先物の中から、上昇トレンドが相対的に強いと想定される上位3つ程度を選定して買建てるとともに、上昇トレンドが相対的に弱いと想定される下位3つ程度を選定して売建てます。
    - 買建てと売建ての比率は、おおむね5：5を基本とします。
- 為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。
  - ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
  - 為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行いません。

#### ロングコース



#### ロング・ショートコース



※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

## 投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価指数先物取引の利用に伴うリスク」、「公社債の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「当ファンドが活用する戦略に関するリスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

## ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限> 2.2% (税抜 2.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.353% (税抜 1.23%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

お申込み

 **ゆうちょ銀行**

(登録金融機関(販売取扱会社))  
株式会社ゆうちょ銀行  
関東財務局長(登金)第611号  
(加入協会)日本証券業協会

 **郵便局**

(金融商品仲介業者)  
日本郵便株式会社  
関東財務局長(金仲)第325号

設定・運用

**大和投資信託**

Daiwa Asset Management

(金融商品取引業者(委託会社))  
大和証券投資信託委託株式会社  
関東財務局長(金商)第352号  
(加入協会)一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

## 投資信託に関する留意事項

- 投資信託は預金・貯金ではありません。
- 日本郵便株式会社は、株式会社ゆうちょ銀行から委託を受けて、投資信託の申し込みの媒介（金融商品仲介行為）を行います。日本郵便株式会社は金融商品仲介行為に関して、株式会社ゆうちょ銀行の代理権を有していないとともに、お客さまから金銭もしくは有価証券をお預かりしません。
- 当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託取得の申し込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえご自身でご判断ください。
- 投資信託説明書（交付目論見書）はゆうちょ銀行各店または投資信託取扱郵便局の投資信託窓口にて用意しております。ただし、インターネット専用ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）はインターネットによる電子交付となります。

### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。